2023.09.03

「処理水」放出に関する国際的な問題

福島第一原発「処理水」の海洋放出にかかわる報道について、複数の新聞社・放送局に以下の「ご意見」を送りました。

大切な視点が報道から抜け落ちているのは残念です。国際的な対立・緊張を激化させず緩和するために重要なことは「もし、逆の立場だったらどのように感じるだろうか」という想像力でしょう。仮に、原発事故を起こしたのが中国で、「処理水」を日本海に放出しようとしていたら、どうでしょうか。少なくとも、中国だけが決定していい問題ではなく「国際的な合意」が必要であると考えませんか。もし中国が日本を含む周辺諸国との「対話・合意」のプロセスを無視して「先送りできない」と放出を一方的に強行したらどのように感じるでしょうか。逆の立場を少し想像するだけでわかることがあるはずです。

日本政府や東電が、中国や太平洋島しょ国との合意を経ないで放出を強行したという重要な問題点に触れないまま、いかにも「中国は悪」という報道をするのは筋が違うのではないか、と考えます。

（以上）

科学的な検証も含めて大きな疑問がいくつもあります。

ただ、**周辺諸国との「合意」もなく（「理解」もなく）一方的に放出する、というのは様々な検証以前の大問題**でしょう。
（確かに、宿泊施設等に対する「抗議・いやがらせ」はお門違いではありますが･･･。日本政府や東京電力への抗議はむしろ当然です。）

また、そもそも「処理水」の海洋放出に反対しているのは中国や太平洋島しょ国だけではない、ということは確認しておきましょう。たとえば、**ドイツの環境大臣は、米国（多くの人たちは「処理水問題」そのものを知らない）のブリンケンとは全く異なる見解を発信しています。**

ドイツ連邦環境省の公式ツイッター(X)アカウントが、**環境大臣 Steffi Lemke** 名義で投稿、日本の福島第 1 原発の APLS 処理水の海洋放出を強く批判した。

https://twitter.com/BMUV/status/1694717897271279716

以下、翻訳。

「環境大臣として、放射能の海への追加放出には極めて批判的だ。このような放射性物質の海洋放出は、他のすべての道が閉ざされた場合の最後の選択肢としてのみ可能である」